

学習内容報告書 フォーマット

学校名	神戸市立 湊小学校
授業者	木嶋五十鈴 埴淵佳菜

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

ミナマタに学ぶ

1-2. 学年

5 学年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

社会科

1-4. 単元の概要

1. 社会科「国土の環境を守る」

この大単元の学習のうち、特に「ミナマタに学ぶ」ことに重点をおく。

水俣病の起こりを学習し、水俣病患者の様々な病状について学ぶことで、なぜここまで病気が広がったのかを考えさせる。その中で、理解されない苦しさや差別、偏見についても考えていく。そして、患者さんが裁判へと立ち向かった経緯や患者を支える支援者にも目を向け、その大切さに気付かせる。さらに、裁判に勝った後、汚染された海もきれいに戻すまでの取組やばらばらになった水俣の人々の絆をとり戻す努力や苦労についても学ぶ。そのうえで、まだまだ水銀汚染に苦しむ世界について、「水俣条約」とともに考えていく。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

四大公害病の一つ「水俣病」は、日本が戦後に飛躍的な発展を遂げ、工業社会へと転換した際、豊かさを享受する一方で、深刻な健康被害や環境破壊をもたらした歴史的惨事である。この「水俣病」を契機に、国民も研究所も行政も経済一辺倒から環境重視の方向に転換したことは紛れもない事実である。

この学習を深め、人の営みによって海洋環境は大きく変化することを理解したうえで、自分たちの身近な海について考えを深めていけるように単元を設定した。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

公害の問題と自分自身とのかかわりについて考え、公害防止や環境保全への取組の重要性に気づく、その学びを生かし、個々が未来の海洋環境へのかかわり方について考え、環境保全に努めようとする態度を身に付けること。

1-7. 単元の展開（全8時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
1	<p>【導入 水俣周辺でおきた公害①】</p> <p>水俣病が起こる前の水俣の様子を調べ、穏やかな暮らしをしていた町に起きた公害に関心をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県水俣市の地理を地図帳で確認する。 ・昔の水俣の人々の暮らしを調べる。 ・「ねこてんかん」の新聞記事から、水俣の人の思いを探る。
2	<p>【様々な水俣病患者②】</p> <p>水俣病の様々な症状を調べ、同じ水俣病でも症状や年齢などによって違いがあり、人生が変わるほどの影響があることに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の手の資料から気になることを出し合う。 ・水俣病患者の様々な症状を調べる。 ・病気になって、人々の生活がどのように変わったのかを話し合う。
3	<p>【水俣病の広がり③】</p> <p>水俣病の広がりや原因を調べ、命が軽視された結果、数えきれない患者が発生したことに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病患者の広がりや原因の地図から気になることを出し合う。 ・水俣病が起こった原因を調べる。 ・水俣病が広がった理由を話し合う。
4	<p>【患者をとりまく人々④】</p> <p>水俣市民やチツ、他地域の人々の患者への対応を調べ、水俣病への無理解や立場の違いから人々の絆がばらばらになっていったことに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・患者に浴びせられた心無い言葉から気になることを出し合う。 ・患者の周りの人々は水俣病をどう受け止めていたのか調べる。 ・人々がばらばらになっていった理由を話し合う。
5	<p>【裁判に立ち上がる人々⑤】</p> <p>裁判にいたる動きを調べ、水俣病患者が体をさらしてまでも解決に向けて立ち上がったことに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判に向かう患者と家族の写真から気になることを出し合う。 ・裁判を起こすことに至った経緯を調べる。 ・体をさらしてまでも裁判を起こした理由を話し合う。
6	<p>【ふるさとと海をとりもどす⑥】</p> <p>裁判後の水俣病解決に向けた取組を調べ、多大な努力を払いながら、海の再生に向けて進み始めたことに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判後の動きについて気になることを出し合う。 ・きれいな海をとりもどした経緯を調べる。 ・ヘドロや汚染した魚を埋め立てた場所を「エコパーク」にした理由を話し合う。
7	<p>【新しい水俣～ふるさと再生～⑦】</p> <p>水俣再生に向けての様々な取組を調べ、水俣の人々が力を合わせて「ふるさとづくり」を目指したことに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・慰霊式の写真から気になることを出し合う。 ・「もやい直し」の取組を調べる。 ・人々はどのような町をめざしていたのかを話し合う。
8	<p>【ミナマタの教訓～世界の人々の心へ～⑧】</p> <p>水俣病の経験を生かした取組や水俣条約を調べ、未来に向けて「ミナマタの教訓」を生かす大切さに気付く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣の人々が水俣のことを市外に伝えている方法について調べる。 ・「水俣条約」について調べる。 ・「水俣条約」を成功させるためにはどうすればよいかを話し合う。

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいて構いません。

2-1. 単元における位置づけ

単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

水俣病の経験を生かした取組や水俣条約を調べ、未来に向けて「ミナマタの教訓」を生かす大切さに気付く。

2-3. 本時の展開

子供の活動（●）と内容（・）	教師の支援（○）と留意点（・）
<p>●水俣の人の経験を生かした取組を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内 5 年生が水俣を学ぶ肥後っ子教室 ・ 全国の修学旅行生の受け入れ ・ 水俣病を語り継ぐ語り部活動 ・ 環境省の視察の受け入れ ・ 農薬や化学肥料を使わない農作物生産 ・ JNC の環境を考えた生産 ・ 水俣条約 <p>●水俣条約について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人の健康と環境を守ることが目的で、128 もの国や地域が結んでいる。 ・ 水銀を出さない、使わないことが約束になっている。 ・ 水俣病患者のスピーチに多くの人が耳を傾けている。 ・ 世界のたくさんの国で水俣病と同じ症状で苦しんでいる人がいる。 ・ 水俣のことを知らない人がまだまだいるのでは。 <p>●「ミナマタの教訓」をどう生かすか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経済より命を大切にする。 ・ 環境を守る。 ・ まずは自分の生活から変える。 ・ 日本だけでなく、世界中で協力が必要。 ・ 未来を作るのは私達だ。 	<p>○ヘルプブックを手掛かりに調べたことを出し合い、活動の多様さに目を向けていく。</p> <p>○JNC は環境に配慮した生産を行っていると同時に、自分たちの生活と関連が深いものを生産していることもおさえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内だけでなく、水俣条約という外国との約束にまで「水俣」という地名がつかわれていることについて問題意識を高め、次へつなぐ。 <p>○水俣条約への世界の反応から、「ミナマタの教訓」を世界に発信する大切さについて目を向けられるようにする。</p> <p>○水俣条約の内容が「ミナマタの教訓」が生かされているような内容であるということを十分おさえたうえで、世界の水銀汚染の資料を提示し、考えを揺さぶる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な国が「ミナマタの教訓」に共感しているにも関わらず、「ミナマタの教訓」がいかされていないことをおさえ、次でつなぐ。 <p>○「水俣と同じこと」という言葉が出てきた際には、どのようなことが水俣と同じなのか問い返し、教訓をより具体的なものにする。</p> <p>○世界の人々から一人一人の意識へと視点を絞ることで、自分のこととして考えること大切さに目を向けられるようにする。</p>

3. 今回の活動の自己評価

水俣の人々から自分たちの生き方を考えることができた、良い機会だった。最後には他人事ではなく、自分の事として考え、より身近な問題としてとらえられるように、水俣の学習だけでなく、水俣から県外、日本、世界へと視点を広げ、「水俣条約」について学習し、自分にできることを考えた。子供たちは、二度と水俣病のような公害を起こしてはならないと考えた。そのために、まずは、自分たちが正しい知識をもつことで偏見や差別をなくすことができると考えた。また、今回学んだことを、広めることが大切で、身近な家族や親戚に伝えることを話し合った。子供たちが今、学んだことで、同じような過ち(環境汚染からの人への汚染、人権問題)が今後、二度と起こらない日本や世界であってほしい。



4. 今後の課題

水俣病については、しっかりと学ぶことができたが、環境問題を学ぶことにはまだまだ十分ではない。そのため、本単元のほかに、国土の環境を守る学習を同じように行う必要がある。そして、今回の学習だけにとどまるのではなく、普段の生活から環境や食料生産について少しでも興味をもち、考えたことを意識して暮らしていくことが課題である。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

- ・人権的な要素を含む内容であるため、この学習で偏見をもつことなく、多角的に物事をとらえることができる指導を徹底した。
- ・参考資料として提出した「ヘルプブック」については、著作権の関係があるので、資料の転用に関しては控えてほしい。

※実施した単元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画(年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料)があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。